

実験効率UP!

再生医療研究に活用

浮遊系細胞接着剤

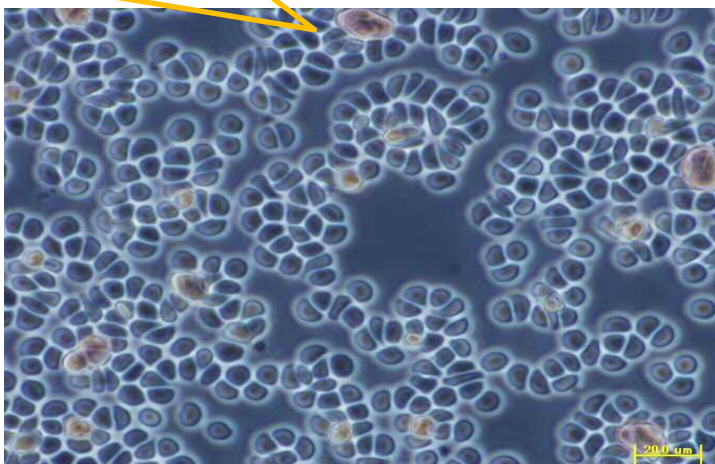
特許出願中

【発明の概要】

本発明で開発した材料(細胞の表面修飾剤)で、細胞を処理するだけで、浮遊系細胞(培養細胞、CCRF-CEM 初代ヒトT細胞、B細胞、赤血球)を培養ディッシュなどの基板へ、強く接着させることができる。

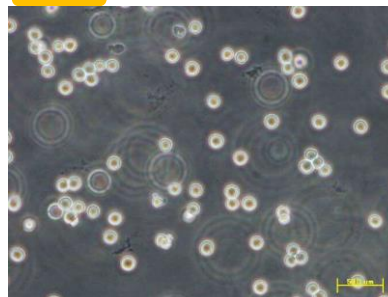
本材料で処理したヒト赤血球を培養皿へ播種

ヒト全血をPBSで洗浄した後、材料で処理し、培養ディッシュへ播種30分以内に、すべての赤血球が基板へ接着している。無処理の血液では、赤血球は浮遊している。

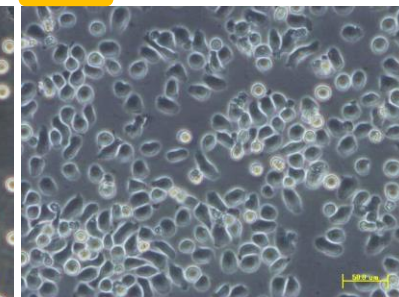


本材料で処理した浮遊系細胞(CCRF-CEM)を培養皿へ播種
本材料で処理した細胞は、培養皿へ移した直後から、基板へ接着し始め、1時間以内には完全に接着する。これは、ピペティングでも剥がれることはない。6時間まで、ほぼ全ての浮遊系細胞が接着する。

0 hr



1 hr



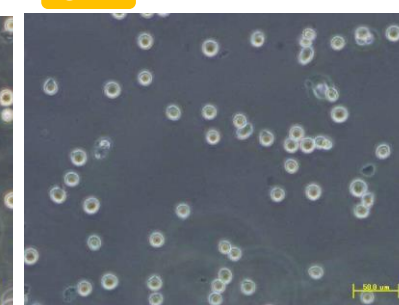
コントロール実験

無処理の浮遊系細胞は接着せず、浮いている状態である。

0 hr



3 hr



<お問合せ先> 株式会社 東京大学TLO(CASTI)
担当:鈴木 和哉(Kazuya Suzuki) TEL:03-5805-7664
Email:suzuki@todaitlo.jp HP<http://www.casti.co.jp/>